いしづち

愛媛労災病院広報紙 第８巻第２号
（通巻第52号）
2010年４月５日発行
発行人：病院長 篠崎文彦

理念：当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

基本方針　1. インフォームドコンセントの実践
2. 安全かつ良質な医療の提供
3. 勤労者医療の推進

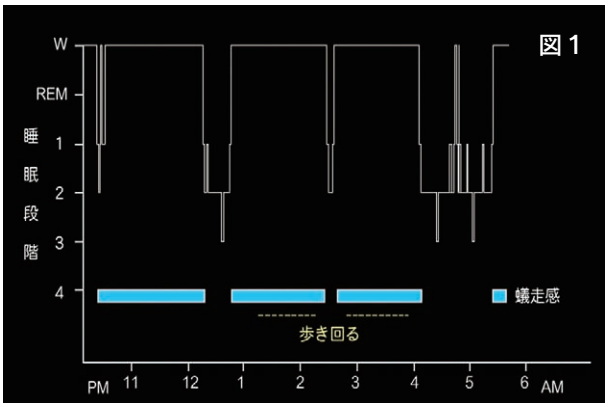
むずむず脚症候群　2
薬剤部紹介　3
イブニングセミナー開催報告　4
市民公開講座予定表　4
看護部紹介　－北４病棟－　3
看護週間行事のお知らせ　4

むずむず脚症候群

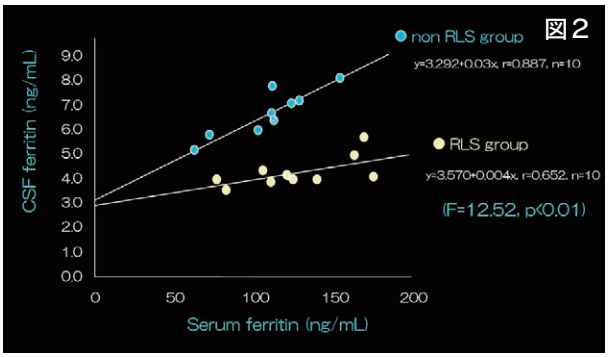
精神科部長　稲　見　康　司

多くの方が、むずむず脚症候群という病名は初めて聞くのではないかと思う。しかし、17世紀にはそれらしい症例が記載されており、20世紀中頃に、英語では restless legs syndrome と呼ばれる疾患概念が確立している。当然ながら、わが国にもこの病気に困っている方が多数いるはずであり、一説には200万人と推定されている。

主な症状は下肢、特にふくらはぎや足の裏の不快感であり、下肢を動かしたいとの強い欲求を生じる。症状は夕方ないし夜に増悪するか、または夕方ないし夜にのみ認められ、安静時に症状が増悪し、運動によって症状が部分的～完全に改善する。重症の場合には、下肢だけでなく、上肢や躯幹にも異常な感覚が出現する。この不快感の表現は、患者さんによってまちまちであるが、むずむずする、虫が這っている、ほてる、かきむしりたいなどと言われることが多い。これまでの調査報告では、むずむず脚症候群は高齢者に多い疾患とされてきたが、未成年発症の方も珍しくないようであり、私自身が診断した最年少の方は6歳であった。症状はよくなったり、悪くなったりと変動しながら、慢性的に持続することが多く、夜間不眠の原因となる（図１）。



原因はよくわかっていないものの、中枢神経系のドーパミンという神経系の機能低下であるとする説が有力である。ドーパミンの機能低下は中枢神経系の鉄不足によって引き起こされると考えており、鉄欠乏性貧血や妊娠中の若い女性にもしばしばみられるものである。しかし、末梢の鉄は多いにもかかわらず、中枢神経系には鉄が不足するという鉄輸送能の障害が、むずむず脚症候群の背景にあるらしい（図２）。鉄不足だからといっても経口的な鉄剤の投与は即効性がなく、身体全体の鉄不足が改善するの



と併せてむずむず脚症候群の症状も改善することが多い。カフェインやアルコール、タバコなどの嗜好品が症状を増悪させることが知られており、そういった物を避ける工夫が必要である。長期間にわたってむずむず脚症候群に悩まされてきた患者さんの中には、足に湿布を貼る、ベッドの足下に水を張った洗面器を置いておき、それに足を漬けて冷やす、健康器具である青竹踏みの棒を布団の中に置いてそれに足の裏をこすりあわせる、等々涙ぐましい努力をしていることが多い。

むずむず脚症候群に対して有効な薬物療法がいくつか知られており、薬物によって症状を軽減ないし消失させることは可能である。一般の不眠症に用いられる睡眠薬は無効であるか、効果は限定的であり、ある種の抗てんかん薬が用いられることが多かったが、健康保険の適応外使用であるという問題点が指摘されていた。最近になって、パーキンソン病に用いられるプラミペキソールという薬物が厚労省の認可を受けて、ようやくむずむず脚症候群に使用できるようになった。多くの患者さんにおいて薬物療法の効果は劇的なようであり、むずむず脚症候群という疾患と診断されればそれまでの不眠の人生から解放されると言っても過言ではない。このような病気が存在することを、患者さんはもちろん、医療者側にも広く知って頂くような啓蒙活動の展開が期待される（図３）。

薬剤部紹介

薬剤部長　木　本　信　秀

院外処方箋発行に伴い、薬剤部では調剤業務の減少で入院患者様の服薬指導（薬剤管理指導業務）が中心になり、薬剤部員９名のうち４名が病棟で患者様のアドヒアランス向上のために服薬指導を行っています。薬剤部内では調剤、注射薬払い出しを中心にTDM(薬物血中濃度測定及び解析)、高カロリー輸液調整（図１：無菌室で調整)、特殊製剤調整等を実施しています。また、一昨年７月より外来化学療法が開始されたのを期に薬歴、レジメンに細心の注意を払いながら全ての抗癌剤の混合業務を薬剤師が行っています（図２：安全キャビネット)。今まで外来、病棟で医師や看護師が調べていた手術および出血を伴う検査で中止しなければいけない薬品について、昨年11月より薬剤部で調べることにし、手術や検査の延期がないようにしたいと努力しています（調剤薬局及び院外処方箋を発行されていない医院の先生方には問い合わせの電話があるかもしれませんが、その際はご協力をお願い致します)。

現在の医療はチーム医療を基本におこなわれているため、薬剤部もNST、ICT、緩和ケアーチーム、糖尿病関係に積極的に参画し、薬剤師としての本領を発揮しています。チーム医療に貢献するために薬剤部では糖尿病学会、感染症学会、化学療法学会、緩和医療学会、静脈経腸学会、癌治療学会、医療薬学会等に積極的に参加し、各分野の専門知識を取得するために日々研鑽しています(現在NST専門薬剤師１人、日本糖尿病療養指導士３人がいますが、さらに感染制御専門薬剤師、がん専門薬剤師の資格取得に向かって努力しています)。

院外処方箋関係では、調剤薬局との連携を密にして、いつも患者様の立場に立って物事を考えています。院内では常に医療従事者には「正確な医薬品情報」、患者様には「安心・安全」な医薬品を提供しています。

図１

図２

患者様に優しい病棟を目指して

北４病棟

当病棟は、産婦人科、整形外科、内科、小児科の混合病棟であり、また女性専用病棟でもあります。病棟スタッフは診療科ごとに助産師チーム(産科、新生児)と看護師チーム(婦人科、整形外科、内科)に分かれていますが、それぞれの専門性を発揮しつつ27名のスタッフが協働しながら日々奮闘しています。助産師チームにおいては、健診に訪れた妊婦を対象に外来保健指導を実施しており、妊娠初期から産褥期まで継続したケアを行っています。今年度は、助産外来開設を予定しており現在、準備中です。看護師チームは、特に緩和ケアに力を注いでおり、院内外の研修会で得た様々な知識を即、実践に結びつけています。また院内の緩和ケアチームと協働するのはもちろんのこと、患者様と共に多職種でのカンファレンスを開催するなど本当の意味での患者様中心の看護を目指しています。北4病棟は、あらゆる意味で患者様に優しい病棟でありたいと考えています。

イブニングセミナーの開催報告

２月17日(水)に当院大会議室において、第12回イブニングセミナーを開催いたしました。講師に愛媛大学大学院医学系研究科生体機能管理学教授・長櫓 巧先生をお招きし「各種痛みの治療法」についてご講演いただきました。

当日は、院内外から多数の医師及び医療関係者の方々にご参加いただき、講演会後には懇親会を開催いたしました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

地域医療連携室

看護週間行事のお知らせ

「看護の心をみんなの心に」をメインテーマとした看護週間に合わせて、地域の方々に気軽に看護にふれていただける行事を計画しております。

１．ふれあい看護体験（一般）：５月10日 月曜日 13時～16時

２．看護の日にちなんだ絵画展示：５月10日～16日

３．ハートフルコンサート：５月14日 金曜日 15時～16時

４．ふれあい看護体験（高校生）：７月21日 水曜日 13時～16時

※ 詳細は、ホームページをご参照ください。

愛媛労災病院市民公開講座「健康教室」予定表

会場：愛媛労災病院南館2階 大会議室　　時間：15：00～16：30

回　数	開催年月日	演　　題	講　　師
第79回	2010.04.15㈭	子宮頸癌と予防ワクチンについて	宮内産婦人科部長（副院長）
第80回	2010.05.13㈭	腰　痛　に　つ　い　て	森脇整形外科医師
第81回	2010.06.17㈭	前 立 腺 癌 に つ い て	植月泌尿器科副部長
第82回	2010.07.15㈭	バランス能力と転倒予防	和田リハビリ科技師長
第83回	2010.08.19㈭	夏休みスペシャル（子供たち集まれ）むし歯の予防（実験つき）	千葉歯科口腔外科部長
第84回	2010.09.16㈭	糖　尿　病　の　お　話	中井内科部長
第85回	2010.10.21㈭	動脈硬化と心臓病について	佐藤循環器内科部長
第86回	2010.11.17㈭	体に優しい血管の病気治療	友澤外科部長（副院長）
第87回	2010.12.16㈭	睡 眠 障 害 に つ い て	稲見精神科部長
第88回	2011.01.20㈭	画 像 診 断 に つ い て	篠原放射線科部長
第89回	2011.02.17㈭	健康寿命の延伸を目指した生活習慣を身につけるためのヒント	味生勤労者予防医療部長
第90回	2011.03.17㈭	家庭でできる救急蘇生	高橋ＩＣＵ師長補佐

（注）開催日時及び開催場所につきましては、変更になることがあります。

広報紙編集メンバー 病院長(篠崎文彦), 副院長(友澤尚文), 医局(稲見康司, 福井啓二), 看護部(伊藤千鶴, 田中紀子, 奥田育子), 総務課(松本伸二, 田中 満), 医事課(石井裕美子, 高橋義恵), 薬剤部(小野雅文), 放射線科(正岡憲治), 検査科(伊藤英司), リハ科(小川進太郎), 栄養管理部(清水 亮)